学校の課題解決に向けたスクールアシスタントの活用【観点Ⅳ】

大分市立東大分小学校（児童数371人 学級数19）　大分教育事務所

現状・課題

・プール指導や校区探検など、校外・水辺の活動における教員単独の安全管理に限界があった。
・不登校傾向の児童等への放課後や別室での丁寧な学習補充に、人的リソースが不足していた。
・学校運営協議会が、学校から地域への「お願い」や「報告」のみの場となっていた。

取組内容

スクールアシスタント登録制度の構築

・地域の人材を「スクールアシスタント」として募集し、登録名簿を作成（現在30数名）。
・学校の教育活動や行事のニーズに応じて、事前に機動的・計画的に依頼するシステムを確立。



学校・家庭・地域の役割分担の明確化

・学校運営協議会で「あいさつ」「環境整備」「学習支援」の３つの分野での協働と、役割分担について熟議。
・家庭や地域の役割を、見守りや安全管理などの「物理的なサポート」に明確化。



	あいさつ（見守り）	環境整備	学習支援
地域	・登下校の見守り ・校区一斉パトロール	・落ち葉拾い ・草刈り ・花壇の活用	・生活科・社会科・体育・家庭科等の学習支援

家庭や地域のやることが明確なので、スクールアシスタントの活用がスムーズに

「校区探検」への12名同行

安全確保だけでなく、地域住民ならではの視点から街の歴史や特徴を詳しく解説。教員は指導に専念。

プール指導時の安全監視スクールアシスタント

全プール授業で監視補助を実施。担任は実技・泳力指導に注力できる体制へ。

授業での学習支援

スクールアシスタントが授業に参加。子どもたちが地域社会やスクールアシスタントと直接温かく繋がる体験的な学びを展開。

放課後等学習補充ルーム（計画段階）

公民館・自治会と共同運営。学校運営協議会が地域人材を確保し、不登校傾向の児童等が安心して別室で学べる環境を創出。

成果

○安全性の向上と教員の負担軽減
➡プールや校外活動での大人の目が増えたことで、教員が指導に専念できる環境が生まれ、指導の質向上と負担軽減が両立された。

○郷土愛の自然な醸成
➡地域の大人たちの語りかけや温かい見守りに直接触れることで、子どもたちが地域への愛着や感謝、当事者意識をより深く抱くようになった。

○「地域とともにある学校」の具現化
➡学校運営協議会が、報告の場から「双方向の課題解決チーム」へと変容。地域が自発的に子どもを支える学習・安全ネットとなる体制が確立された。